

でんでんむしのかなしみ

にいみ
なんきち
新美 南吉

いっぴきの でんでんむしが ありました。
ある ひ、 その でんでんむしは、
たいへんな ことに きが つきました。

「わたしは、いままで うっかりして いたけれど、 わた
しの せなかの からの なかには、 かなしみが いっぱ
い つまって いるでは ないか。」

この かなしみは どう したら よいでしょう。
でんでんむしは、おともだちの でんでんむしの ところ
に やって いきました。

「わたしは、もう いきて いられません。」
と その でんでんむしは おともだちに いいました。
「なんですか。」

と おともだちの でんでんむしはききました。

「わたしは、なんと いう

ふしあわせな ものでしょう。

わたしの せなかの からの

なかには、 かなしみが いっぱい つまって いるので
す。」

と はじめの でんでんむしが はなしました。

すると、おともだちの でんでんむしは いいました。

「あなたばかりでは ありません。わたしの

せなかにも かなしみは いっぱいです。」

それじゃ しかたないと おもって、はじめの でんでん

むしは、 べつの おともだちの ところへ いきました。

すると、その おともだちも いいました。

「あなたばかりじゃ ありません。わたしの

せなかにも かなしみは いっぱいです。」

そこで、はじめの でんでんむしは、 また べつの おと
もだちの ところへ いきました。

こうして、おともだちを じゅんじゅんに たずねて い
きました。どの ともだちも おなじ ことを いうので

ありました。

とうとう はじめの でんでんむしは きが つきまし
た。

「かなしみは だれでも もっているのだ。

わたしばかりでは ないのだ。わたしは わたしの

かなしみを こらえて いかなきや ならない」

そして、この でんでんむしは もう、なげくの を やめ
たので あります。

「でんでんむしのかなしみ」

※新装版 新美南吉童話集1『ごん狐』(2012年
大日本図書株式会社)の「でんでんむしのかな
しみ」をもとに編集しました。

※このテキストを個人的に読む以外の利用を
される場合には、新美南吉記念館までご連絡く
ださい。

(TEL : 0569-26-4888)